

ウェブサイト等における情報提供に関する 移動等円滑化整備ガイドライン改訂案

ウェブサイトにおける情報提供に関する検討について

1. 趣旨

公共交通機関のウェブサイトにおけるアクセシビリティの配慮については、令和元年度の「移動等円滑化のために必要な旅客施設又は車両等の構造及び設備に関する基準等検討会」において検討し、同年10月、移動等円滑化整備ガイドライン（以下「ガイドライン」という。）において、「障害者等が円滑にウェブサイト等を利用し必要な情報を得られるようにするために、JIS X 8341-3:2016 に基づき、ウェブアクセシビリティを確保する」ことを標準的な整備内容としたところである。

このような中、令和6年3月に開催した「第11回移動等円滑化評価会議」においてとりまとめた「当事者目線に立ったバリアフリー環境の課題等に関する最終とりまとめ」の中で、速やかに取り組む課題の1つである「ウェブサイトにおける情報提供」について、現行ガイドラインの内容充実化を目的として、「公共交通機関のバリアフリー基準等に関する検討会」の下に「ウェブサイトにおける情報提供に関するワーキンググループ（以下「WG」という。）」を設置し、検討を行う。

2. WGについて

(1) 検討内容

現行のガイドラインでは、ウェブアクセシビリティ確保のための具体的手段に関する記載がなく、また、JIS X 8341-3:2016 に基づいてウェブアクセシビリティを確保したとしても、障害当事者が使いやすいものであるとは限らないことから、公共交通事業者のウェブサイトにおける情報提供のあり方について、次のことについて検討を行う。

- ・ JIS 達成基準をウェブサイトで実現するための具体的手段
- ・ ユーザビリティ向上のためにウェブサイトで積極的に情報提供すべき内容及び手段等

(2) 検討スケジュール

○第1回WG：令和6年8月20日（火）

- ・ WGでの検討の進め方

○公共交通事業者のウェブアクセシビリティ・ユーザビリティ確保状況等に関する調査実施

○第2回WG：令和6年12月13日（金）

- ・ 公共交通事業者のウェブアクセシビリティ・ユーザビリティ確保状況等に関する調査結果報告
- ・ JIS X 8341-3 の改正状況報告

○ウェブアクセシビリティに関する当事者ヒアリング調査実施

○第3回WG：令和7年2月26日（水）

- ・ ウェブアクセシビリティに関する当事者ヒアリング調査結果報告
- ・ バリアフリー整備ガイドライン改訂案（議論のたたき台）の提示

○第4回WG：令和7年4月～5月頃開催予定

3. 構成員等

WGは、学識経験者、障害当事者であってウェブアクセシビリティに精通されている方、公共交通事業者、行政機関の実務者により構成する。WGの構成員は、以下のとおり。

事務局：国土交通省総合政策局バリアフリー政策課、社会システム株式会社

ウェブサイトにおける情報提供に関するワーキンググループ

構成員名簿（案）

（敬称略・順不同）

秋山 哲男	中央大学 研究開発機構 機構教授
渡辺 哲也	新潟大学 工学部 教授
関 喜一	国立研究開発法人産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 上級主任研究員
硯川 潤	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部長
福田 健太郎	日本アイ・ビー・エム株式会社 研究開発 標準&製品コンプライアンス 部長
伊敷 政英	Cocktailz 代表
澤田 大輔	公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 バリアフリー推進部 次長
大久保 忠教	東日本旅客鉄道株式会社 サービス品質改革部 ユニットリーダー
堀 敏賢	東京地下鉄株式会社 広報部 社会・地域コミュニケーション課 課長
芦田 隆則	成田国際空港株式会社 管理部門 広報部 マネージャー
瀬井 威公	国土交通省 総合政策局 バリアフリー政策課 課長

※国土交通省内構成員については、今後調整の上追加予定

ガイドライン		◎移動等円滑化基準に基づく整備内容(義務)、○標準的な整備内容、◇望ましい整備内容	
アクセシビリティ	<p>○障害者等が円滑にウェブサイト等を利用し必要な情報を得られるようにするために、JIS X 8341-3:2016に基づき、ウェブアクセシビリティを確保する。</p> <p>○ウェブサイト内では、可能な限り、アクセシブルなHTML形式を用いることが望ましい。HTML形式を用いることが難しく、PDFファイルを用いる場合には、文字情報がないPDFファイルは使用しないと、アクセシビリティ対応を行うこと。</p> <p>◇上記の他、WCAG2.2で新たに追加された達成基準についても、その内容に基づきアクセシビリティを確保することが望ましい。</p>	参考5-1-1 (参考○)	参考5-1- ●
バリアフリー情報へのアクセス性	<p>◇トップページに障害者のための国際シンボルマーク等を表示し、バリアフリー情報へアクセスしやすくすることが望ましい。</p> <p>◇バリアフリー情報のページは情報を集約し、表を用いた構造化やレイアウトの統一を図ると共に、画面スクロールを減らすなどの配慮をすることが望ましい。</p>	(参考○)	
旅客施設に関するバリアフリー情報	構内図	<p>◇コントラスト比/線種などの配慮や、簡略図の使用、テキストを用いた代替コンテンツを提供することが望ましい。</p> <p>◇出入口、改札、エレベーター/エスカレーター/階段、トイレ、乗り場などの間の移動経路や、スロープの有無等について情報提供することが望ましい。</p> <p>◇構内の移動等円滑化された経路に関する情報を提供することが望ましい。</p>	(参考○)
	トイレ	◇バリアフリートイレの大きさや備えている機能について情報提供することが望ましい。	(参考○)
	エレベーター	◇エレベーターの設置場所やかごの大きさについて情報提供することが望ましい。	(参考○)

- ・WCAG2.2の達成基準に基づくことについて、望ましい整備内容として追記。
- ・PDFファイルのアクセシビリティ対応、およびアクセシブルなHTMLでの代替についてのガイドラインを参考として添付予定

「参考5-1-1: JIS X 8341-3:2016 達成基準」について、WCAG2.2で示された達成基準を反映した形で掲載。(WCAG2.2を反映したJIS X 8341-3が改正予定(時期未定)それまでの間WCAG2.2の内容を掲載)

デジタル庁が発行する「ウェブアクセシビリティ導入ガイドブック」等を参考にしながら、達成基準をウェブサイトで実現するための具体的手段について、事業者ウェブサイトにおける好事例等を掲載するとともにポイントを解説

【(例)達成基準:2.2.2一時停止、停止、非表示:自動でコンテンツを切り替えない】



- ・ユーザビリティ向上のためにウェブサイトにおいて情報提供すべき内容及び手段について、項目を追加

ガイドライン

◎移動等円滑化基準に基づく整備内容(義務)、○標準的な整備内容、◇望ましい整備内容

旅客施設に関するバリアフリー情報	その他	◇情報提供することが望ましい内容の例 <ul style="list-style-type: none"> ・ホームドアの有無 ・ホームと車両床面との段差・隙間の状況 ・駅の有人・無人の別、無人となる時間帯 ・無人駅の場合においては、インターホン等の駅員連絡装置の設置状況等 ・リアルタイム情報（工事予定情報、遅延情報、時間帯による施設利用情報等） ・移動等円滑化された経路のうち、雨天時に濡れずに移動できる経路 	(参考○)
車両等に関するバリアフリー情報	◇車椅子スペースやトイレの設置位置について情報提供することが望ましい。	(参考○)	
他の交通事業者等との連携	◇乗換え、乗継ぎ、案内サービス等に関する情報を提供することが望ましい。	(参考○)	
その他	◇広告情報とそれ以外の情報の区別に配慮することが望ましい。 ◇ウェブサイトの新設・更新の際は、障害当事者の試行的利用による意見を踏まえて構築することが望ましい。	(参考○)	

・ユーザビリティ向上のためにウェブサイトにおいて情報提供すべき内容及び手段について、項目を追加

参考5-1-● : JIS X 8341-3:2016 (WCAG2.1及びWCAG2.2により変更となると想定される箇所を抜粋)

項目	内容	レベル	
1.3 適応可能なガイドライン	情報、および構造を損なうことなく、様々な方法(例えば、よりシンプルなレイアウト)で提供できるようにコンテンツを制作する。	-	
1.3.4 表示の向き	コンテンツは、その表示及び操作を、縦向き又は横向きのような単一のディスプレイの向きに制限しない。ただし、特定のディスプレイの向きが必要不可欠な場合は除く。	AA	WCAG2.1で追加
1.3.5 入力目的の特定	利用者の情報を集める入力フィールドのそれぞれの目的は、次の場合にプログラムによる解釈が可能である。 a) 入力フィールドが、ユーザインタフェースコンポーネントの入力目的の節で示される目的を提供している。 b) フォーム入力データとして想定される意味の特定をサポートする技術を用いて、コンテンツが実装されている。	AA	WCAG2.1で追加
1.3.6 目的の特定	マークアップ言語で実装されたコンテンツでは、ユーザインタフェースコンポーネント、アイコン、領域の目的はプログラムによる解釈が可能である。	AAA	WCAG2.1で追加
1.4 判別可能なガイドライン	コンテンツを、利用者にとって見やすく、聞きやすいものにする。これには、前景と背景とを区別することも含む。	-	
1.4.10 リフロー	コンテンツは、情報又は機能を損なうことなく、かつ、以下において2次元スクロールを必要とせずに提示できる。 a) 320CSSピクセルに相当する幅の縦スクロールのコンテンツ。 b) 256CSSピクセルに相当する高さの横スクロールのコンテンツ。 利用や意味の理解に2次元のレイアウトを必要とする一部のコンテンツを除く。	AA	WCAG2.1で追加
1.4.11 非テキストのコントラスト	以下の視覚的提示には、隣接した色との間で少なくとも3:1のコントラスト比がある。 a) ユーザインタフェースコンポーネント ユーザインタフェースコンポーネント及び状態を特定するのに必要な視覚的な情報。ただし、アクティブではないユーザインタフェースコンポーネントや、そのコンポーネントの見た目がユーザエージェントによって提示されていてコンテンツ制作者が変更していない場合は除く。 b) グラフィカルオブジェクト コンテンツを理解するのに必要なグラフィック部分。ただし、そのグラフィック特有の提示が、情報を伝えるうえで必要不可欠な場合は除く。	AA	WCAG2.1で追加
1.4.12 テキストの間隔	以下のテキストスタイルプロパティをサポートするマークアップ言語を用いて実装されているコンテンツにおいては、以下をすべて設定し、かつ他のスタイルプロパティを変更しないことによって、コンテンツ又は機能の損失が生じない。 a) 行の間隔(行送り)をフォントサイズの少なくとも1.5倍に設定する b) 段落に続く間隔をフォントサイズの少なくとも2倍に設定する c) 文字の間隔(字送り)をフォントサイズの少なくとも0.12倍に設定する d) 単語の間隔をフォントサイズの少なくとも0.16倍に設定する 例外: テキスト表記においてこれらのテキストスタイルプロパティの一つ以上を使用しない自然言語及び文字体系では、その言語と文字体系の組み合わせに存在するプロパティだけを用いて、この達成基準に適合することができる。	AA	WCAG2.1で追加
1.4.13 ホバー又はフォーカス	ポインタホバー又はキーボードフォーカスを受け取ってから外すことで、追加コンテンツを表示させてから非表示にさせる場合は、以下の要件を全て満たす。 a) 非表示にすることができる ポインタホバー又はキーボードフォーカスを動かさずに追加コンテンツを非表示にするメカニズムが存在する。ただし、追加コンテンツが入力エラーを伝える場合や、他のコンテンツを不明瞭にしたり置き換えたりしない場合は除く。 b) ホバーすることができる ポインタホバーによって追加コンテンツを表示させることができる場合、その追加コンテンツを消すことなく、ポインタを追加コンテンツ上で動かすことができる。 c) 表示が継続される ホバーやフォーカスが解除される、利用者が非表示にする、又はその情報が有効でなくなるまでは、追加コンテンツが表示され続ける。 例外: 追加コンテンツの視覚的提示がユーザエージェントによって制御されていて、かつコンテンツ制作者が変更していない場合は例外とする。	AA	WCAG2.1で追加
2 操作可能な原則	ユーザインタフェースコンポーネント及びナビゲーションは、操作可能でなければならない。	-	
2.1 キーボード操作可能なガイドライン	全ての機能をキーボードから利用できるようにする。	-	
2.1.4 文字キーのショートカット	文字(大文字と小文字を含む)、句読点、数字、又は記号のみを使用したキーボードショートカットがコンテンツに実装されている場合、少なくとも次のいずれかを満たしている。 a) 解除 ショートカットを解除するメカニズムが利用できる。 b) 再割当て 一つ以上のキーボードの非印字キー(例えばCtrl、Alt)を含むようにショートカットを再割当てするメカニズムが利用できる。 c) フォーカス中のみ有効化 ユーザインタフェースコンポーネントのキーボードショートカットは、そのコンポーネントがフォーカスを持っているときのみ有効になる。	A	WCAG2.1で追加
2.2 十分な時間のガイドライン	利用者がコンテンツを読み、かつ、使用するために十分な時間を提供する。	-	
2.2.6 タイムアウト	データの損失を引き起こす恐れのある利用者の無操作の残り時間が警告される。ただし、利用者が20時間以上何もなくてもデータが保持される場合は、この限りではない。	AAA	WCAG2.1で追加
2.3 発作の防止のガイドライン	発作や身体的反応を引き起こすようなコンテンツを設計しない。	-	
2.3.3 インタラクションによるアニメーション	アニメーションが、機能又は伝達されている情報に必要不可欠でない限り、インタラクションによって引き起こされるモーションアニメーションを無効にできる。	AAA	WCAG2.1で追加

項目	内容	レベル	
2.4 ナビゲーション可能なガイドライン	利用者がナビゲートしたり、コンテンツを探し出したり、現在位置を確認したりすることを手助けする手段を提供する。	-	
2.4.11 隠されないフォーカス (最低レベル)の達成基準	ユーザインタフェースコンポーネントがキーボードフォーカスを受け取るとき、コンテンツ制作者が作成したコンテンツによって、そのコンポーネントの全体が隠されるようなことがない。	AA	WCAG2.2で追加
2.4.12 隠されないフォーカス (高度レベル)の達成基準	ユーザインタフェースコンポーネントがキーボードフォーカスを受け取るとき、コンテンツ制作者が作成したコンテンツによって、そのコンポーネントのどの部分も隠されることがない。	AAA	WCAG2.2で追加
2.4.13 フォーカスの外観の達成基準	キーボードのフォーカスインジケータが視覚的に表示される場合、フォーカスインジケータの領域が以下の全てを満たす。 a) フォーカスされていないコンポーネント又はサブコンポーネントの、太さ 2 CSS ピクセルの外周の領域と同等以上の大きさである。 b) フォーカスされている状態とフォーカスされていない状態とで、同一ピクセルに少なくとも 3:1 のコントラスト比がある。 例外: ・フォーカスインジケータがユーザエージェントによって決定され、かつコンテンツ制作者が調整できない場合。 ・コンテンツ制作者がフォーカスインジケータ及びそのインジケータの背景色を変更していない場合。	AAA	WCAG2.2で追加
2.5 入力モダリティのガイドライン	利用者がキーボード以外の様々な入力を通じて機能进行操作しやすくする。	-	
2.5.1 ポインタのジェスチャの達成基準	マルチポイント又は軌跡ベースのジェスチャを使って操作する機能はすべて、軌跡ベースのジェスチャなしのシングルポインタで操作することができる。ただし、マルチポイント又は軌跡ベースのジェスチャが必要不可欠である場合は例外とする。	A	WCAG2.1で追加
2.5.2 ポインタのキャンセルの達成基準	シングルポインタを使って操作できる機能は、以下の要件の少なくとも一つを満たす。 a) ダウンイベントがない 機能を実行する目的でポインタのダウンイベントを使用していない。 b) 中止又は元に戻すことができる 機能の完了にはアップイベントを使用し、かつ機能の完了前に中止する、又は機能の完了後に元に戻すためのメカニズムが利用できる。 c) アップイベントで反転 アップイベントによって、先のダウンイベントのすべての結果が反転する。 d) 必要不可欠 ダウンイベントによって機能を完了させることが必要不可欠である。	A	WCAG2.1で追加
2.5.3 ラベルを含む名前の達成基準	ユーザインタフェースコンポーネントがテキスト又は文字画像を含むラベルを持つ場合、視覚的に提示されたテキストが名前に含まれている。	A	WCAG2.1で追加
2.5.4 動きによる起動の達成基準	デバイスの動き又は利用者の動きで操作できる機能は、ユーザインタフェース コンポーネントでも操作でき、かつ偶発的な起動を防ぐために動きへの反応を無効化することができる。ただし、次の場合は除く。 a) サポートされたインタフェース アクセシビリティ サポートされたインタフェースを通じて機能进行操作するために動きが用いられる。 b) 必要不可欠 その機能にとって動きが必要不可欠であり、この達成基準に従うと動作を無効化してしまう。	A	WCAG2.1で追加
2.5.5 ターゲットのサイズ (高度レベル)の達成基準	ポインタ入力のターゲットのサイズは、少なくとも 44 × 44 CSS ピクセルである。ただし、次の場合は除く。 a) 同等 ターゲットと同等のリンク又はコントロールが同じページに 44 × 44 CSS ピクセル以上のサイズで存在する。 b) インライン ターゲットが文中、又はテキストブロック内に存在する。 c) ユーザエージェントのコントロール ターゲットのサイズがユーザエージェントによって決定され、かつコンテンツ制作者によって変更されていない。 d) 必要不可欠 そのターゲットを特定の方法で提示することが、伝達される情報において必要不可欠である。	AAA	WCAG2.1で追加
2.5.6 入力メカニズムの共存の達成基準	プラットフォームで提供されている入力モダリティの使用を、ウェブコンテンツが制限しない。ただし、その制限が必要不可欠な場合、コンテンツのセキュリティのために必要な場合、又は利用者による設定を尊重するうえで必要な場合は例外とする。	AAA	WCAG2.1で追加
2.5.7 ドラッグ動作の達成基準	操作にドラッグ動作を用いる全ての機能は、ドラッグなしのシングルポインタで完遂できる。ただし、ドラッグが必要不可欠である、又はその機能がユーザエージェントによって決定され、かつコンテンツ制作者によって変更されない場合は除く。	AA	WCAG2.2で追加
2.5.8 ターゲットのサイズ (最低レベル)の達成基準	ポインタ入力のターゲットのサイズは、少なくとも 24 × 24 CSS ピクセルである。ただし、次の場合は除く。 a) 間隔 複数の小さなターゲット (24 × 24 CSS ピクセル未満のもの) が配置されており、それぞれの境界ボックスの中心に直径 24 CSS ピクセルの円があるとした場合に、その円が別のターゲットと重なる、又は別の小さなターゲットの円と重なることがない。 b) 同等 その機能は、この達成基準を満たす同一ページ上の別のコントロールを通じて達成できる。 インライン: ターゲットが文中に存在する、又は、そのサイズがターゲット以外のテキストに対する行の高さによって制約されている。 c) ユーザエージェントのコントロール ターゲットのサイズがユーザエージェントによって決定され、かつコンテンツ制作者によって変更されていない。 d) 必要不可欠 そのターゲットを特定の方法で提示することが、必要不可欠である、又は伝達される情報に対して法的に要求されている。	AA	WCAG2.2で追加

項目	内容	レベル	
3 理解可能な原則	情報及びユーザインタフェースの操作は、理解可能でなければならない。	-	
3.2 予測可能なガイドライン	ウェブページの表示及び挙動を予測可能にする。	-	
3.2.6 一貫したヘルプの達成基準	ウェブページが次のヘルプのメカニズムのいずれかを含み、かつ、それらのメカニズムがウェブページ一式の中にある複数のウェブページで繰り返されている場合、他のページコンテンツに対して相対的に同じ順序で出現する。ただし、変更が利用者によって行われた場合は除く。 a) 人間への連絡先 b) 人間への連絡メカニズム c) 自己解決のためのオプション d) 完全に自動化された連絡メカニズム	A	WCAG2.2で追加
3.3 入力支援のガイドライン	利用者の間違いを防ぎ、修正を支援する。	-	
3.3.7 冗長な入力項目の達成基準	以前に利用者によって入力された、又は利用者に対して提供された情報であって、同一のプロセスにおいて再入力する必要がある情報は、次のいずれかである。 a) 自動入力される。 b) 利用者が選択可能である。 ただし、次の場合は除く: ・情報の再入力が必要不可欠である。 ・その情報がコンテンツのセキュリティを確保するために必要である。 ・以前に入力された情報が無効になっている。	A	WCAG2.2で追加
3.3.8 アクセシブルな認証(最低限レベル)の達成基準	認知機能テスト(パスワードを記憶する、パズルを解く、など)は、認証プロセスのどのステップにおいても要求されない。ただし、そのステップが次の少なくとも一つを提供する場合は除く。 a) 代替手段 認知機能テストに依存しない別の認証方法がある。 b) メカニズム 認知機能テストを利用者が完遂できるように支援するメカニズムが利用できる。 c) 物体の認識 認知機能テストは、物体を認識させるものである。 d) 個人特有のコンテンツ 認知機能テストは、その利用者本人がウェブサイトに提供した非テキストコンテンツを識別させるものである。	AA	WCAG2.2で追加
3.3.9 アクセシブルな認証(高度レベル)の達成基準	認知機能テスト(パスワードを記憶する、パズルを解く、など)は、認証プロセスのどのステップにおいても要求されない。ただし、そのステップが次の少なくとも一つを提供する場合は除く。 a) 代替手段 認知機能テストに依存しない別の認証方法がある。 b) メカニズム 認知機能テストを利用者が完遂できるように支援するメカニズムが利用できる。	AAA	WCAG2.2で追加
4 堅ろう(牢)の原則	コンテンツは、支援技術を含む様々なユーザエージェントが確実に解釈できるように十分に堅ろう(牢)でなければならない。	-	
4.1 互換性のガイドライン	現状及び将来の、支援技術を含むユーザエージェントとの互換性を最大にする。	-	
4.1.1 構文解析の達成基準	マークアップ言語を用いて実装されているコンテンツにおいては、要素には完全な開始タグ及び終了タグがあり、要素は仕様に従って入れ子になっていて、要素には重複した属性がなく、どのIDも一意的である。ただし、仕様で認められているものを除く。	A	WCAG2.2で削除
4.1.3 ステータスメッセージの達成基準	マークアップ言語を使って実装されたコンテンツでは、ステータスメッセージは、役割(role)又はプロパティを通してプログラムによる解釈が可能であり、フォーカスを受けとらなくても支援技術によって利用者に提示することができる。	AA	WCAG2.1で追加

- 令和7年3月21日(金)(本日)
令和6年度第2回 公共交通機関のバリアフリー基準等に関する検討会開催
⇒WGでのご意見等を踏まえ、改訂案を修正し、報告。
必要に応じて、第4回ウェブサイト等における情報提供に関するワーキンググループにおいて議論。
- 令和7年5月頃
第4回ウェブサイト等における情報提供に関するワーキンググループ開催予定
⇒検討会の指摘事項等を踏まえた改訂案について議論
【最終改訂案とりまとめ】
- 令和7年7月頃
令和7年度第1回公共交通機関のバリアフリー基準等に関する検討会開催予定
⇒バリアフリー整備ガイドライン改訂案について了承
【確定】
- 令和7年8月頃
パブリックコメント(1か月間)
- 令和7年9月頃
バリアフリー整備ガイドライン改訂

WCAGとは

WCAG

Web Content Accessibility Guidelines、略称WCAGと呼ばれます。インターネットの各種規格を策定・勧告しているW3C(World Wide Web Consortium)というインターネットの各種技術を標準化する国際的な非営利団体が作成しているガイドラインです。1999年に 1.0、2008年に 2.0が勧告され、現在は「2.2」というバージョンが勧告されています。

そして、2012年に国際規格のISOからWCAG 2.0の内容をそのまま採用したISO/IEC 40500:2012が出されました。この動きによってWCAGを規格として使うことができるようになりました。

WCAG 2.0

WCAG 2.0は、「知覚可能」「操作可能」「理解可能」「堅牢(robust)」の4つの原則と、ウェブアクセシビリティを向上させるための目標にあたる12のガイドラインで構成されています。さらに、ガイドラインを細分化した61の達成基準があります。

WCAG 2.0はテスト容易性(Testability)を大きく向上させたことと、技術変化に対応するために文書構成を変えたことがWCAG 1.0との大きな違いです。そのため、「原則」「ガイドライン」「達成基準」は技術・デバイスの変化や進化に対応するため、技術仕様に依存しない抽象的な内容になっています。技術仕様に関する内容は「WCAG 2.0 解説書」と「WCAG 2.0 達成方法集」に書かれています。技術仕様に関する文書をガイドライン本体に含めないことにより更新頻度を上げることができ、ウェブの技術変化に柔軟に対応しています。

原文はW3Cが誰でも参照できる形で公開しています。加えて、日本ではWAICが日本語訳を作成し公開しています。

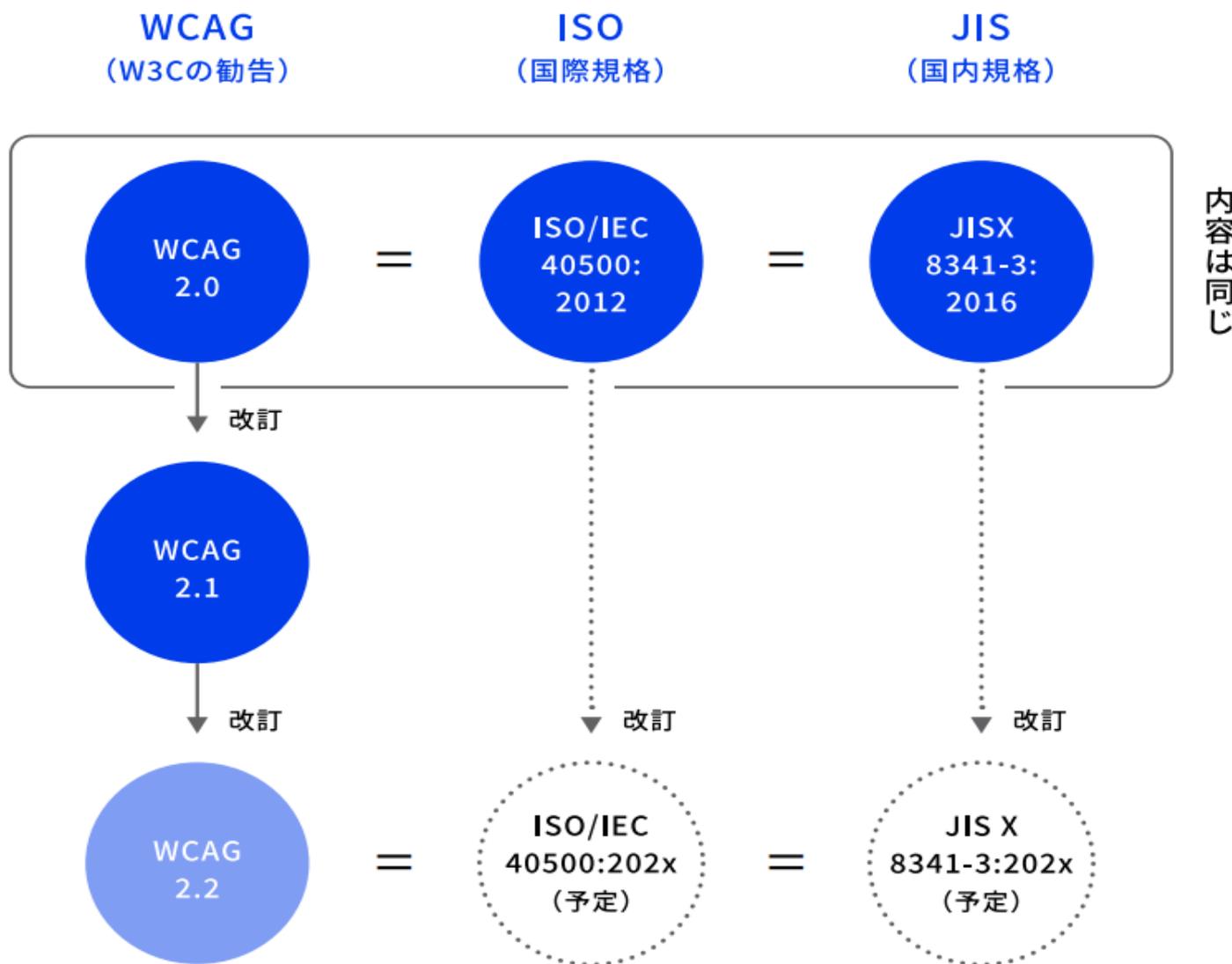
WCAG 2.1

WCAG 2.1は2018年に勧告されたWCAG 2.0の改訂版です。WCAG 2.0が勧告された2008年にはまだ一般的ではなかったスマートフォンなどのモバイル端末(タッチデバイス)への対応、弱視への対応、認知・学習障害への対応などが盛り込まれています。日本ではまだJIS X 8341-3:2016の一致規格がWCAG 2.0から更新されていないため一般的ではありませんが、一部の国では基準に取り込まれています。

WCAG 2.2

WCAG 2.2はWCAG 2.1の改訂版で、2023年10月に勧告されたWCAGの最新版です。フォーカスインジケーター、テキストリンクを想定したタップ時のサイズ、認証方法、ヘルプリンクなど、現在の情報システムで使われているナビゲーションに対応した達成基準が追加されました。

WCAGとJIS X 8341-3の関係



※現在はWCAG 2.2が最新版です。